

TAC 電験三種講座

入江先生からのメッセージ

24.1.31



【機械科目】 範囲の広さに対応するコツ

機械科目の範囲の広さに対応するコツとして、まず割り切ることが重要です。

機械の配点は概ね4機(直流機,変圧器,誘導機,同期機)で50点、

4機以外(パワエレ,自動制御,情報,電熱,照明,電動機応用,電気化学)で50点となっていますので、

4機で30点,4機以外で30点得点できれば合格します。

4機はすべて出題されるので、一通り学習をしておく必要がありますが、

4機以外では近年電熱,照明,電気化学が出題されない年があり、

出題されたとしても問17の選択問題で出題されることも多く、結果的に解答しないこともあるので、

これらについては優先度が低いことがわかります。

実際、私は現役のころ照明と電気化学については一切学習をせず受験し合格しているので、

苦手であれば、スルーしても問題ないと思います。

他にも、細かい部分を見ると大量に覚えなければならなくなりますが、

10年・20年に一度出るかどうかという内容も多いので、

過去問題集などで出題されているから全て覚えないと、ではなく、

授業で扱っている重要かつ頻出の部分を優先して学習しましょう。

あくまでも60点をとるための学習を心がけましょう。

機械の学習で公式が多いと聞くことがあります。

これまでの学習でも様々な公式が出てきたと思いますが、

一覧にすると理論に比べて覚えなければならない公式は意外と少ないかと思っています。

TAC 電験三種講座

入江先生からのメッセージ

24.1.31



また、機械は理論に比べると、公式を使用して計算問題を解く場合もありますが、知識問題としてなぜこのような式になるかを問われる場合もあります。

こういった問題に対応するためにも、公式をそのまま暗記するだけではなく、なぜこのような公式になったかを授業動画やテキストを通してある程度知っておくと、その知識をそのまま使って問題を解くことができますので、一石二鳥となります。

計算問題についても、理論の場合は回路がちょっとでも違えば計算方法も違いますので、

その都度考えなければならないですが、機械の場合は実際にある機器についての出題なので、

回路の形や出題形式なども固定化され、類問も多かったです。

なので、機械はインプットをしっかりしていると、アウトプットもある程度解け、アウトプットとして計算問題をある程度していると、他の問題も解けるようになるといった感じで、

最初のインプットは時間がかかるので焦るかと思いますが、

その後の問題演習については理論に比べると多少早くなります。

ということで、ボリュームが大きいことは事実ですが、

ある程度割り切ってしまい、焦らずインプットを入念に実施すれば、グッと合格に近づきますので、引き続き継続的に学習を進めましょう。